

座間味村地域循環型社会形成推進地域計画

座 間 味 村
平成30年 3月29日 作成
平成30年11月27日 変更
令和 元年12月 2日 変更
令和 4年 1月 7日 変更

1 地域の循環型社会形成を推進するための基本的な事項

(1) 対象地域

構成市町村名	座間味村
面 積	16.74 km ²
人 口	935人（平成28年10月1日現在）

(2) 計画期間

本計画は、平成30年4月1日から令和5年3月31日までの5年間を計画期間とする。

なお、目標の達成状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要な場合には計画を見直すものとする。

(3) 基本的な方向

座間味村の生活系ごみについては、住民への意識啓発、集団回収への支援、有料化の実施、生ごみの堆肥化及びリサイクルの奨励等により、発生抑制を進めるとともに、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律の対象となる品目の分別収集を行い、循環型社会にふさわしい廃棄物リサイクル・処理システムの構築を図る。事業系ごみについては、宿泊施設や小売りの商店等がその発生源であり、これらの各事業所にごみの発生抑制、食品ロスの発生抑制、マイバッグ運動等の積極的な推進等の協力を要請することにより、ごみの減量化を図るものとする。

また、本地域は平成26年に国立公園に指定され、国内外から注目される観光地を有しており、本地域を訪れる観光客に対しても、ごみの減量について積極的に協力を求めていくものとする。

(4) ごみ処理の広域化・施設の集約化の検討状況

ア 中間処理施設（ごみ焼却施設）

「沖縄県ごみ処理広域化計画（以下、「広域化計画」という。）」における本村の目標は、計画期間内（平成11～20年度）に、村独自による座間味島の焼却施設を更新または廃止し、また、阿嘉島の焼却施設を継続使用（座間味島の焼却施設を廃止した場合には、座間味島分のごみも併せて焼却処理を実施）する計画となっていた。

平成14年度から15年度にかけて、座間味島に熔融施設を整備し、平成19年には、阿嘉島の焼却施設について稼働停止した。その後、座間味島の熔融施設についても稼働停止し、以後は、那覇市・南風原町環境施設組合に、燃えるごみの焼却処理を委託している。

イ 最終処分場

「広域化計画」における本村の目標は、計画期間内（平成11～20年度）に村独自による管理型処分場を新設し、将来的には継続使用する計画となっていたが、現段階では用地が確保できていないため、未整備である。このため、現在、沖縄本島への海上運搬による処理委託を行っている。

ウ 再生利用施設

「広域化計画」における本村の目標は、計画期間内（平成11～20年度）は各最終処分場前処理施設等において整備する計画となっていたが、最終処分場が未整備であるため、前処理設備は整備できていない。しかし、本村では、阿嘉島の焼却施設内のペットボトル圧縮梱包設備及び缶類圧縮設備を利用し処理を行っている。

2 循環型社会形成推進のための現状と目標

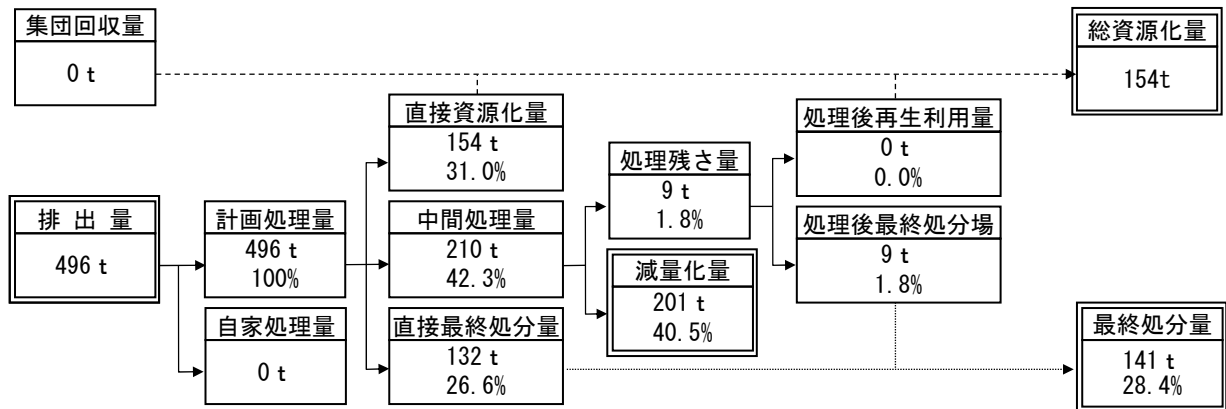
(1) 一般廃棄物等の処理の現状

平成28年度の一般廃棄物の排出、処理状況は図1のとおりである。

総排出量は、496トンであり、再生利用される総資源化量は154トン、リサイクル率(=直接資源化量+中間処理後の再生利用量+集団回収量)/(ごみの総処理量+集団回収量)は約31%である。

中間処理による減量化量は201トンであり、排出量の約41%が減量化されている。また、排出量の約28%に当たる141トンが埋め立てられている。

なお、中間処理量のうち、焼却量は210トン/年である。



※ 排出量に対する割合は四捨五入しているため、合計が合わないことがある。

図1 一般廃棄物の処理状況フロー（平成28年度）

(3) 一般廃棄物等の処理の目標

本計画の計画期間中においては、廃棄物の減量化を含め循環型社会の実現を目指し、表1のとおり目標量について定め、それぞれの施策に取り組んでいくものとする。

表1 減量化、再生利用に関する現状と目標

指 標		現状（割合 ^{※1} ） （平成28年度）		目標（割合 ^{※1} ） （令和5年度）	
排出量	事業系 総排出量	304	トン	296	トン（- 2.6%）
	1事業所当たりの排出量 ^{※2}	1.37	トン/事業所	1.10	トン/事業所（-19.7%）
	生活系 総排出量	192	トン	187	トン（- 2.6%）
	1人当たりの排出量 ^{※3}	141	kg/人	139	kg/人（- 1.4%）
合 計 事業系生活系排出量合計		496	トン	483	トン（- 2.6%）
再生利用量	直接資源化量	154	トン（31.0%）	88	トン（18.2%）
	総資源化量	154	トン（31.0%）	152	トン（31.5%）
エネルギー回収量	エネルギー回収量（年間の発電電力量及び熱利用量）	—		—	
		—		—	
最終処分量	埋立最終処分量	141	トン（28.4%）	121	トン（25.1%）

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量合計に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合

※2 (1事業所当たりの排出量) = {(事業系ごみの総排出量) - (事業系ごみの資源ごみ量)} / (事業所数)
 なお、事業所数は平成28年度実績値が153事業所、令和5年度推計値が185事業所である。

※3 (1人当たりの排出量) = {(生活系ごみの総排出量) - (生活系ごみの資源ごみ量)} / (人口)

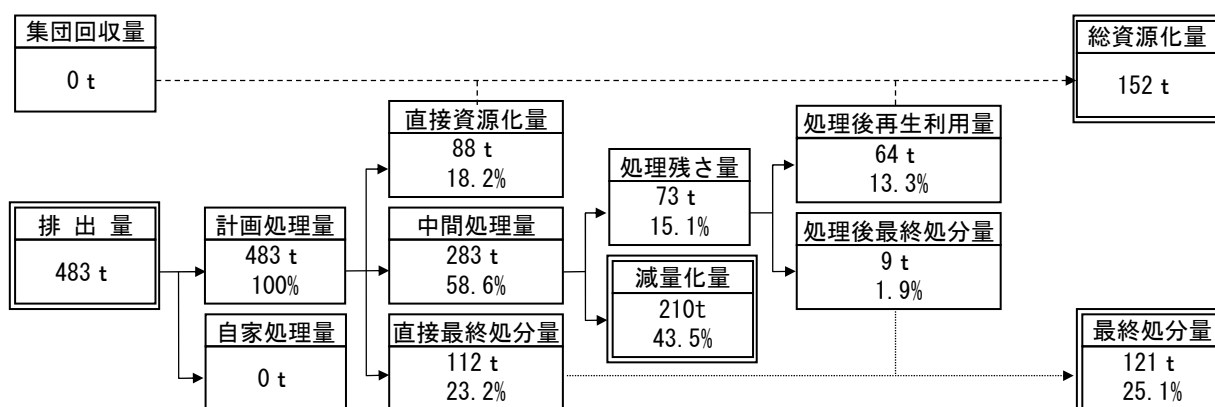
〈用語の定義〉

排 出 量：事業系ごみ、生活系ごみを問わず、出されたごみの量（集団回収されたごみを除く。）〔単位：トン〕

再 生 利 用 量：集団回収量、直接資源化量、中間処理後の再生利用量の和〔単位：トン〕

エネルギー回収量：エネルギー回収施設において発電された年間の発電電力量〔単位：MWh〕及び熱利用量〔単位：GJ〕

最 終 処 分 量：埋立処分された量〔単位：トン〕



※ 排出量に対する割合は四捨五入しているため、合計が合わないことがある。

図2 目標達成時の一般廃棄物の処理状況フロー

3 施策の内容

(1) 発生抑制、再使用の推進

ア 有料化

生活系及び事業系ごみともに、指定袋による従量制により課金し、処理料金を徴収しており、今後も引き続き行っていく。

イ 環境教育、普及啓発

これまで、村内の小中学校と連携しつつ、環境教育に係る施設見学会を開くなど、環境意識の普及啓発を行っており、引き続き取り組んでいく。

ウ マイバッグ運動・レジ袋対策

地域内の商店等と協力し、マイバッグ運動を推進する。

その周知に当たっては、ポスターやチラシ等の商店等への配布を行ってきており、引き続き同様に取り組んでいく。

エ 生ごみ処理器導入の推進

これまで、各家庭で生ごみの有効利用を図ってもらうため、生ごみ処理器の導入を推進してきたところであり、引き続き取り組んでいく。なお、電動生ごみ処理機については、省エネルギーの観点も考慮し、その導入については、十分に検討を行った上での導入を図るように指導を行っていく。

オ ごみ分別の推進

座間味村のごみ分別種類は、燃えるごみ、燃えないごみ、生ごみ、資源ごみ、ゆうがいごみ・きけんごみ・乾電池・ボタン電池となっており、資源ごみはさらに、アルミ・スチール缶、ペットボトル、びん、発泡スチロール、雑がみ・本類・新聞紙・ダンボール・紙パックに細分している。

今後もごみの分別排出を推進し、資源化を推進していく。

(2) 処理体制

ア 生活系ごみの処理体制の現状と今後

座間味村の生活系ごみの分別種類等は、図3の通りである。

また、生ごみ等の有機性廃棄物については、たい肥化を推進し、公共施設等での利用を図っていくものとする。

イ 事業系ごみの処理体制の現状と今後

事業系ごみについても、生活系ごみの分別区分に準じ、収集、処分を行うものとする。

また、村内の事業所の中でも比較的多くの事業系ごみを排出する事業者に対しては、事業場における事業系ごみの減量、処理に関する計画を作成させ、計画を実行するよう指導していく。

表2 座間味村のごみの分別区分と処理方法の現状と今後

現 状 (平成28年度)			
座間味村			
分別区分	処理方法	処理施設等	処理実績 (トン)
燃えるごみ	焼却	那覇・南風原クリーンセンター	210
燃えないごみ	埋立	(処理委託)	118
生ごみ	リサイクル	座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	3
資源ごみ	アルミ・スチール缶	リサイクル 阿嘉島クリーンセンター	20
	ペットボトル	リサイクル 座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	11
	びん	リサイクル 座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	27
	発泡スチロール	リサイクル 座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	0
	雑がみ・本類・新聞紙・ダンボール・紙パック	リサイクル 座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	91
ゆうがい・きげんごみ 乾電池・ボタン電池	埋立	(処理委託)	0
草・木		阿嘉島クリーンセンター	2
粗大ごみ	埋立	(処理委託)	14



今 後 (令和5年度)						
分別区分	処理方法		処理施設等		処 理 予 測 量 (トン)	分別区分
			一次処理	二次処理		
燃えるごみ	焼却		座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	那覇・南風原クリーンセンター	202	燃えるごみ
燃えないごみ	埋立		(処理委託)		115	燃えないごみ
生ごみ	リサイクル	堆肥化	座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター		3	生ごみ
資源ごみ	アルミ・スチール缶	リサイクル	再資源化	阿嘉島クリーンセンター	19	アルミ・スチール缶
	ペットボトル	リサイクル	再資源化	座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	11	ペットボトル
	びん	リサイクル	再資源化	座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	26	びん
	発泡スチロール	リサイクル	再資源化	座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	0	発泡スチロール
	雑がみ・本類・新聞紙・ダンボール・紙パック	リサイクル	再資源化	座間味村クリーンセンター 阿嘉島クリーンセンター	89	雑がみ・本類・新聞紙・ダンボール・紙パック
ゆうがい・きげんごみ 乾電池・ボタン電池	埋立		(処理委託)		0	ゆうがい・きげんごみ 乾電池・ボタン電池
草・木	リサイクル	堆肥化	座間味村クリーンセンター		2	草・木
粗大ごみ	埋立		(処理委託)		14	粗大ごみ

家庭ごみの正しい分け方・出し方

ごみに関する お問い合わせ先
 (平日 8:30~17:30)
 座問味村役場 総務・福祉課 (高江洲)
 TEL 098-896-4045

指定袋で出すもの

月・水・金曜日	燃えるごみ COMBUSTIBLES	プラスチック類 ・プラスチック類	CD、DVD ・CD、DVD	ゴム製品 ・ゴム製品	紙くず ・紙くず カーボン紙
	燃えないごみ INCOMBUSTIBLES	カーテン等 ・カーテン等	紙おむつ ・紙おむつ	布類 ・布類	金属類 ・金属類
金曜日	燃えないごみ INCOMBUSTIBLES	傘 ・傘	小型家電 ・小型家電	白熱球 ・白熱球	

指定袋以外で出せるもの

3 生ごみ 月・水・金曜日

住民の皆さん 知っていましたか？
 本村では、1世帯に1台の生ごみ処理機購入の助成を行っております。生ごみ処理機の取扱価格の2分の1が助成額となっております。この機会に生ごみ処理機を使ってみてはいかがでしょうか？なお助成額の上限は30,000円となっております。

水分をよく切って

4 資源ごみ 月曜日

捨てる前にちょっと待って！！

スプレー缶やガスボンベ缶などは、誤った処理をすると大変危険なゴミです。ガスを全部抜いてから出して下さい。(穴をあける等)

雑がみや本類等は雨天時に出さないでください。種類別に分けて、紙ひもで結んで出して下さい。

5 ゆうがい・きけんごみ、乾電池・ボタン電池 金曜日

箱などに入れて、見える場所に使用済みと表示

新聞紙等で包装し、見える場所にキケンと表示

袋を使わず、バケツで回収

6 草・木 月曜日

直接持込

多量草木の処理方法
 ・役場へ連絡し、所定の場所に搬入をしてください。

7 粗大ごみ 回収曜日なし

粗大ごみは直接持ち込みとなっております。また当面の間、手数料は免除致します。※粗大ごみとは、子どものおもちゃやタンス、ベッドなど指定袋に入らないごみです。

家電4品目 お近くの郵便局で家電リサイクル券をご購入下さい。購入後は、役場へご連絡ください。(収集員が受け取りに来ます)

テレビ ・冷蔵庫 ・洗濯機 ・エアコン

PCリサイクル 各メーカーへお問い合わせください。

本村で処理ができないゴミ

品目

- ・自動車・バイク
- ・ボート・タイヤ
- ・バッテリー
- ・化学薬品
- ・ガスボンベ
- ・浄化槽・消火器
- ・スプリング入りマット
- ・その他

・本村では右の品目に記載されている廃棄物は、処理できません。不明の場合は、役場までお問い合わせ下さい。

事業所の皆様へ

事業系一般廃棄物(民宿・飲食店・販売店など)は役場で回収を行っておりません。直接、クリーンセンターへ 持ち込みして下さい。

直接持込時間

- 月・水・金・土曜日 午後1時から午後5時まで
- 火・木曜日 午前9時から午後5時まで

※ただし、午前12時から午後1時まででは受付できません。

図3 生活系ごみの正しい分け方・出し方 (平成29年12月現在)

(3) 処理施設の整備

ア 廃棄物処理施設

ごみの適正処分を実施するため、表3のとおり必要な施設整備を行う。

表3 整備する処理施設

事業番号	整備施設種類 施設名	事業名	処理能力	設置予定地	事業期間 (全体事業期間)
1	リサイクルセンター 座間味村リサイクルセンター	座間味村地域マテリアルリサイクル推進施設整備事業	金属圧縮機:500kg/h ペットボトル梱包機:100kg/h	座間味村字座間味地内	R2~4

※ 事業名は交付要綱別表1と合わせること。

現有処理施設の概要を様式1の3の(1) 現有施設リスト(施設種別、施設名、事業主体、型式及び処理方式、処理能力等について一覧表としたもの)に示す。

また、地域計画期間外の将来的な事業を記載する場合は、整備施設種類の名称の最後に(予定)と記載し、事業期間を括弧書きで記載すること。(基本的に将来的な事業の記載は不要である。)

(整備理由)

事業番号1 既存施設の老朽化

(4) 施設整備に関する計画支援事業

(3)のリサイクルセンターの整備に先立ち、平成30年度に旧熔融施設の解体前調査及び解体設計、令和元年度に発注仕様書作成等の計画支援事業を行う。

表4 実施する計画支援事業

事業番号	事業名	事業内容	事業期間
1	座間味村地域マテリアルリサイクル推進施設(事業番号1)に係る環境調査、発注仕様書作成等計画支援事業	熔融施設解体前調査、熔融施設等解体設計、発注仕様書作成等	H30~R元

(5) その他の施策

その他、地域の循環型社会を形成する上で、次の施策を実施していく。

ア 再生利用品の需要拡大事業

これまで、生ごみ等から作られたたい肥については、地域内の農家、公共施設等にて利用を行ってきたところであり、引き続きたい肥の利用促進を図る。

イ 廃家電のリサイクルに関する普及啓発

これまで、廃家電のリサイクルについては、特定家庭用機器再商品化法に基づく、適正な回収、再商品化がなされるよう、関連団体や小売店などと協力して、普及啓発を行ってきたところであり、引き続き普及啓発に取り組んでいく。

ウ 不法投棄対策

これまで、村内の各自治会などと一体となった普及啓発により、分別区分の徹底を進めるとともに、パトロールの実施や立て看板の設置を行い、不法投棄防止を図ってきたところであるが、依然として不法投棄の判明事案があとを絶たない状況にある。このようなことから、今後は、パトロール等これまでの取組の強化に加え、より効果的な施策（監視カメラの設置、条例制定等）に関する情報収集及びその実施に向けた検討を行っていく。

エ 災害時の廃棄物処理に関する事項

大規模災害の発生等不測の事態に備え、広域的処理体制の確保を図るため、近隣離島村及び沖縄本島を含めた周辺地域との連携体制の構築に向けた検討・協議等を行っていく。

また、大規模災害時に発生する災害廃棄物を適正かつ迅速に処理するため、早急に災害廃棄物処理計画の策定に取り組んでいくものとする（令和5年度策定予定）。

4 計画のフォローアップと事後評価

(1) 計画のフォローアップ

毎年、計画の進捗状況を把握し、その結果を公表するとともに、必要に応じて、国及び沖縄県と意見交換をしつつ、計画の進捗状況を勘案し、計画の見直しを行う。

(2) 事後評価及び計画の見直し

計画期間終了後、処理状況の把握を行い、その結果を取りまとめた時点で、速やかに計画の事後評価、目標達成状況の評価を行う。また、評価の結果を公表するとともに、評価結果を次期計画策定に反映させるものとする。

なお、計画の進捗状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じ計画を見直すものとする。

様式 1

循環型社会形成推進交付金等事業実施計画 総括表 1

1 地域の概要

(1) 地域名	座間味村地域	(2) 地域内人口	935 人	(3) 地域面積	16.74km ²
(4) 構成市町村等名	座間味村	(5) 地域の要件	人口 面積 (沖縄) 離島 奄美 豪雪 山村 半島 (過疎) その他		
(6) 構成市町村に一部事務組合等が含まれる場合、当該組合の状況	組合を構成する市町村： 設立されていない場合、今後の見通し：		設立(予定)年月日： 年 月 日設立、認可予定		

*交付要綱で定める交付対象となる要件のうち、該当する項目全てに○を付ける。

2 一般廃棄物の減量化、再生利用の現状と目標

指標・単位	年	過去の状況・現状（排出量等に対する割合）					目標	
		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	令和 5 年度
排出量	事業系 総排出量 (トン)	250	226	227	315	270	304	296 (H28 比-2.6%)
	1 事業所当たりの排出量 (トン/事業所)	1.53	1.49	1.06	1.33	1.23	1.37	1.10
	生活系 総排出量 (トン)	195	194	151	179	162	192	187(H28 比-2.6%)
	1 人当たりの排出量 (kg/人)	197	199	124	151	131	141	139
	合 計 事業系生活系排出量合計 (トン)	445	420	378	494	432	496	483 (H28 比-2.6%)
再生利用量	直接資源化量 (トン)	32 (7%)	27 (6%)	97 (26%)	130 (26%)	104 (24%)	154 (31%)	88 (18%)
	総資源化量 (トン)	32 (7%)	27 (6%)	97 (26%)	130 (26%)	111 (26%)	154 (31%)	152 (31%)
エネルギー回収量	(年間の発電電力量 MWh)	—	—	—	—	—	—	—
	エネルギー回収量 (年間の熱利用量 GJ)	—	—	—	—	—	—	—
最終処分量	埋立最終処分量 (トン)	14 (3%)	15 (4%)	141 (37%)	0 (0%)	146 (34%)	141 (28%)	121 (25%)

※ 別添資料として指標と人口等の要因に関するトレンドグラフを添付する。

一般廃棄物処理計画と目標値が異なる場合に、地域計画と一般廃棄物処理計画との整合性に配慮した内容

--

様式2

循環型社会形成推進交付金等事業実施計画総括表2

事業種別	事業番号	事業主体名称	規模		事業期間		総事業費(千円)					交付対象事業費(千円)					備考		
			単位		開始	終了	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
○マテリアルリサイクル等に関する事業							737,200	—	—	365,200	95,000	277,000	701,496	—	—	349,496	85,000	267,000	
	1	座間味村	1	t/日	R2	R4	737,200	—	—	365,200	95,000	277,000	701,496	—	—	349,496	85,000	267,000	旧溶融施設等解体工事含む
○施設整備に関する計画支援事業							39,000	21,000	18,000	—	—	—	39,000	21,000	18,000	—	—	—	
	1	座間味村			H30	R元	39,000	21,000	18,000	—	—	—	39,000	21,000	18,000	—	—	—	
合計							776,200	21,000	18,000	365,200	95,000	277,000	740,496	21,000	18,000	349,496	85,000	267,000	

施設概要（マテリアルリサイクル施設系）

都道府県名 沖縄県

(1) 事業主体名	座間味村
(2) 施設名称	座間味村リサイクルセンター（マテリアルリサイクル施設）
(3) 工期	令和2年度～令和4年度
(4) 施設規模	処理能力 金属圧縮機:500kg/h、ペットボトル梱包機:100kg/h
(5) 処理方式	選別、圧縮、梱包等
(6) 地域計画内の役割 ※1	資源化の推進
(7) 廃焼却施設解体 工事の有無	① 無

「ストックヤード」を整備する場合

(8) ストック対象物	
-------------	--

「容器包装リサイクル推進施設」を整備する場合

(9) 容器包装リサイクル 推進施設の内訳	<ul style="list-style-type: none"> ① 分別収集回収拠点の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別収集・処理方法 ・ごみ容器の種類・設置基数 ・建築物の構造 ② 小規模ストックヤードの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・施設規模 ・ストック対象物 ③ 簡易プレス機の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・処理方法 ・処理能力 ・設置場所 ④ 電気ごみ収集車及び分別ごみ収集車の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・導入台数（積載量） ・運行計画
--------------------------	--

「灰溶融施設」を整備する場合

(10) スラグの利用計画	
---------------	--

(11) 総事業計画額 ※2	737,200千円 うち、交付対象事業費 701,496千円
----------------	-----------------------------------

※1 基幹的設備改良事業を実施する場合は、二酸化炭素の削減率を記載すること。

※2 事業が複数の地域計画にまたがる場合、本地域計画期間内の金額を記載し、全体の金額を括弧書きすること。

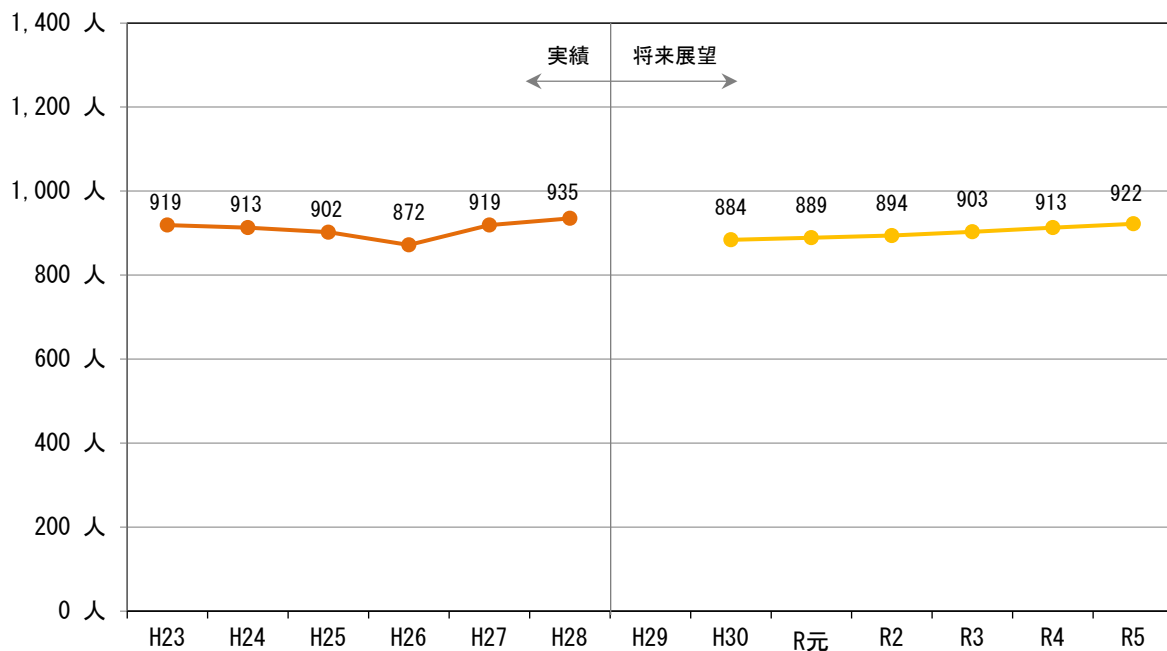
計 画 支 援 概 要

都道府県名 沖縄県

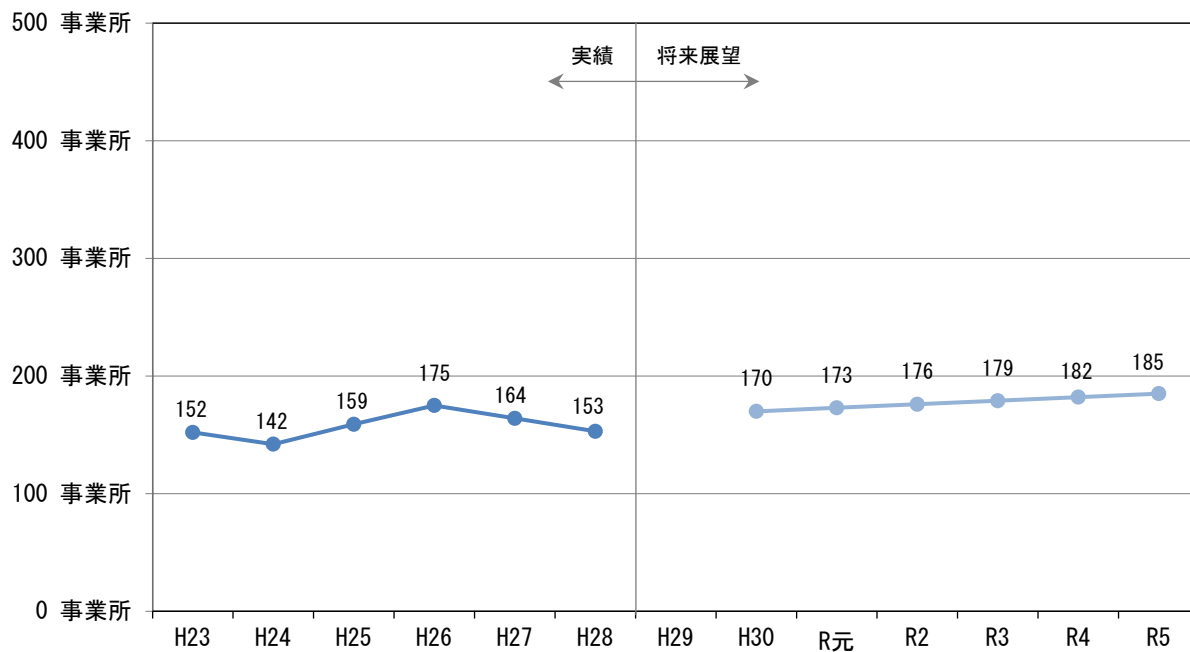
(1) 事業主体名	座間味村		
(2) 事業目的	座間味村リサイクルセンター施設整備のため		
(3) 事業名称	座間味村地域マテリアルリサイクル推進施設整備事業		
(4) 事業期間	平成 30 年度 ~ 令和 元 年度	平成 年度 ~ 平成 年度	平成 年度 ~ 平成 年度
(5) 事業概要	旧溶融施設等解体前調査、旧溶融施設等解体設計、座間味村リサイクルセンター整備に関する設計・発注仕様書作成等を行う。		
(6) 総事業計画額 ※1	39,000千円 うち、交付対象事業費 39,000千円		

※1 事業が複数の地域計画にまたがる場合、本地域計画期間内の金額を記載し、全体の金額を括弧書きすること。

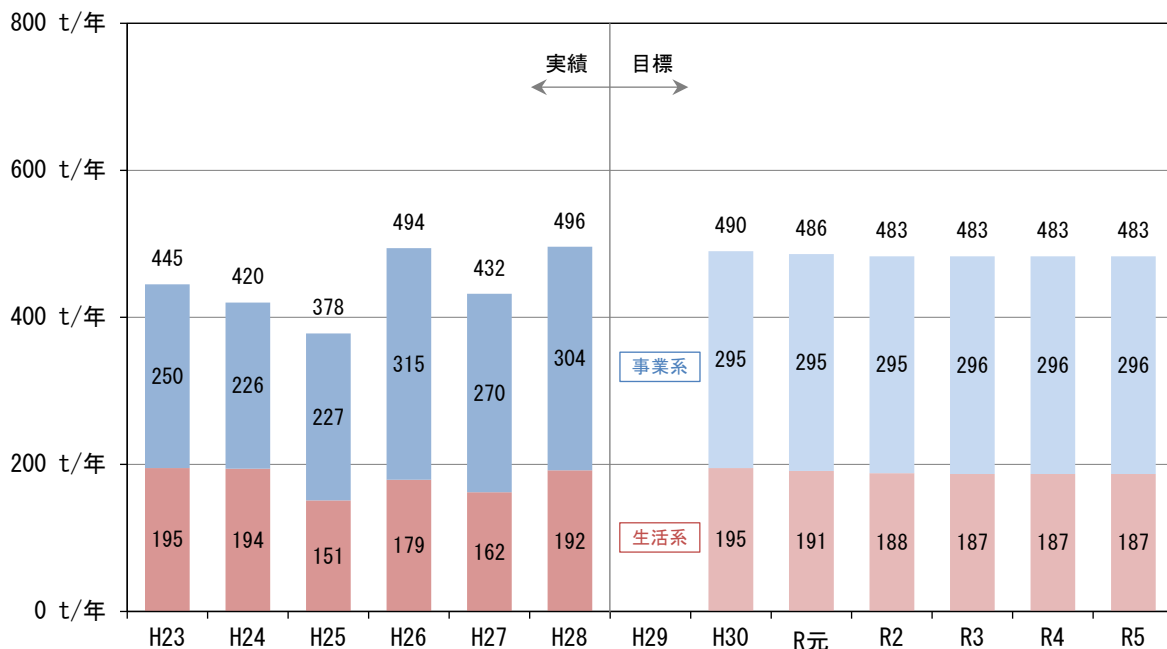
行政人口の実績値と将来展望



事業所数の実績値と将来展望



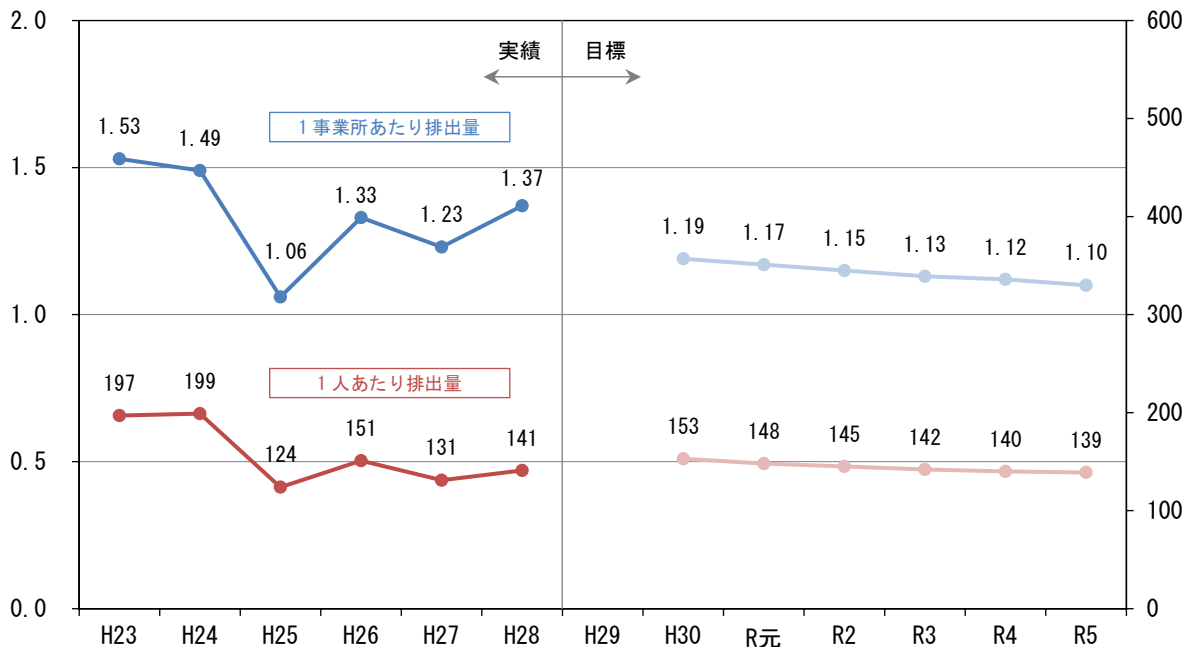
事業系・生活系ごみ総排出量の実績値と目標値



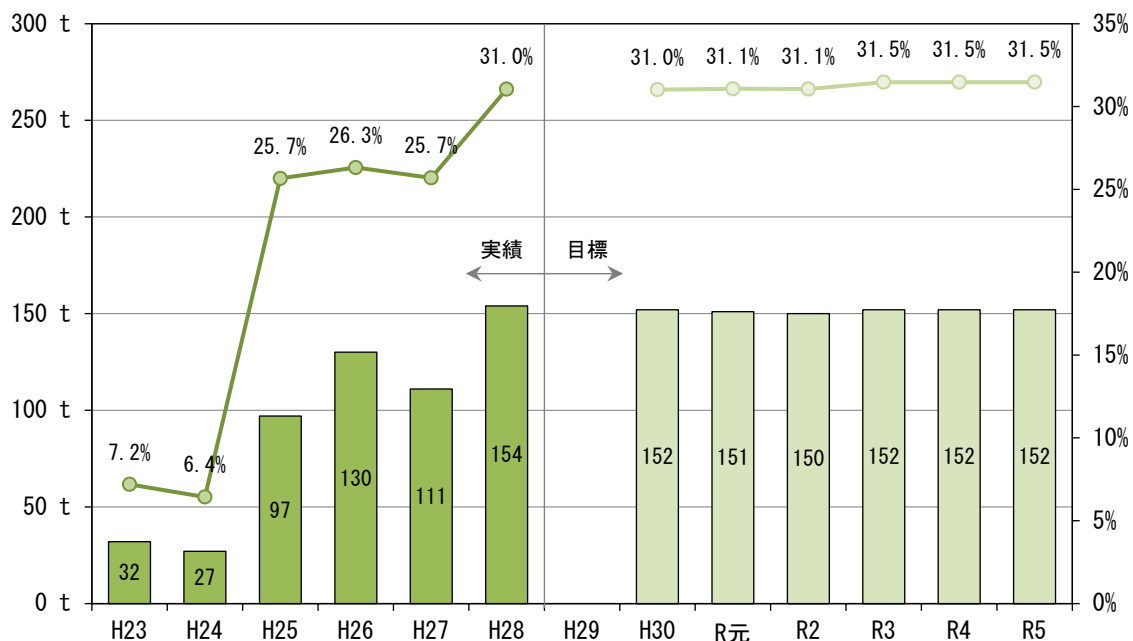
1 事業所あたり
排出量
(t/事業所)

1 事業所あたり・1 人あたりの排出量の実績値と目標値

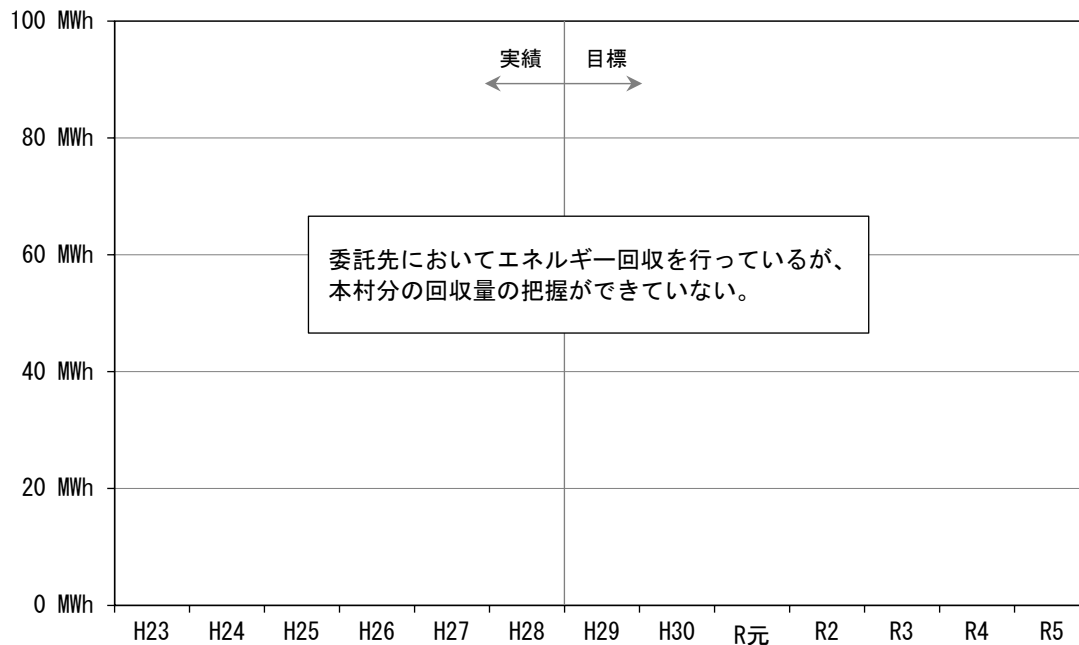
1 人あたり
排出量
(kg/人)



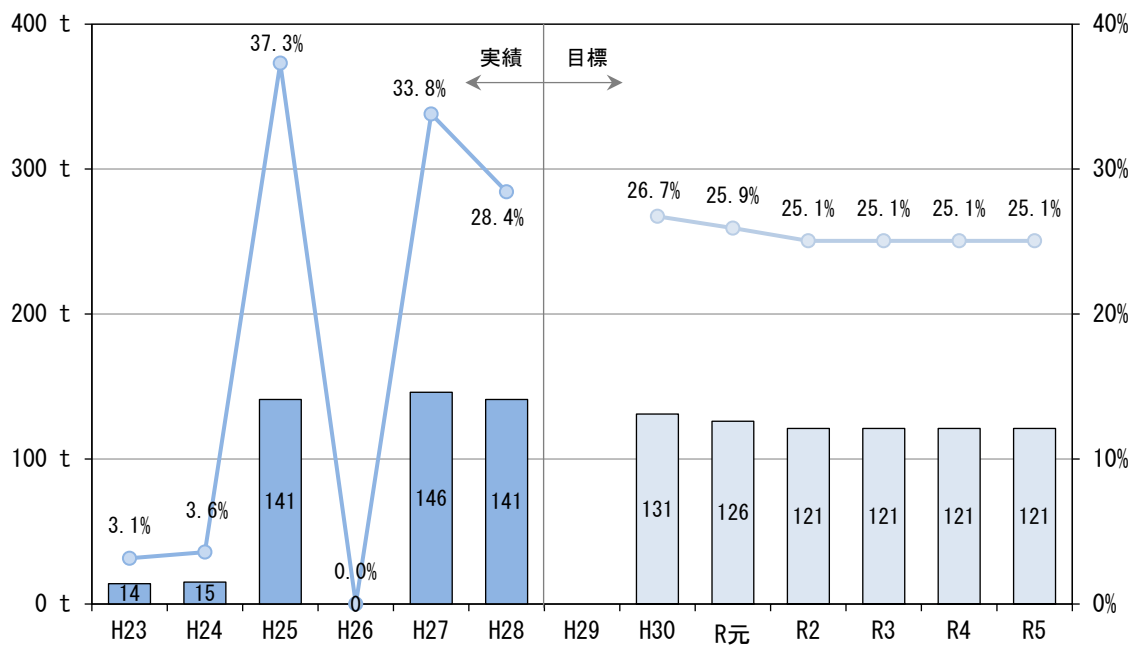
総資源化量と資源化率の実績値と目標値



エネルギー回収量の実績値と目標値



最終処分量と最終処分率の実績値と目標値





計画地域内の施設の状況